

1

1 決

2 負う

3 身

4 予期

5 陽光

6 農地

2

1 日

2 A 手

B 口

C せなか

(3 I 完答)

3 I ア 病院

II ときどきそ

(6 完答)

4 (記述題)

5 エ

6 I 命 II 重い病気

3

7 今度

8 ウ

9 おじさんが家

1 A めした

B なまもの

C しきし

1 D かぞぐるま

2 その理

3 ③ イ ⑤ エ ⑦ ウ

(3 完答)

2

4 健康な体に生まれなかった (同意可)

5 ウ

6 食事時

7 I 2

II 2

III 1

4 I 国産化

II データ収集

配点	
1・2・3	各2点×13=26点
4	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1 「決をとる」で、議案の採用不採用を賛成反対の数によって決めるという意味である。二字熟語では「採決」となる。

2 「負う」はここでは、引き受けて自分のものにするものである。「追う」と書いてはいけない。

3 「身」はここでは熱意という意味である。問2の「負う」もそうだが、さまざまな意味があるので確認しておこう。

4 「予期」は前もって期待したり覚悟したりすること。「予」の訓読みは「あらかじ(め)」である。

5 「陽光」は日光のことである。「陽」の右側を「易」としたり「光」のはじめの三画を「ツ」のように書いたりしてはいけない。

6 「農」の下半分の「辰」の形や、「地」の右側の「也」の形に特に注意をはらっていいいに書こう。

2

1 さまざまな情報を集めながら通読をしていくわけであるが、本文のどこかで曜日を確認させる情報も出てくるはずだという意識を持って読んでほしい。直後の「三人でランチを」と書かれていることからなんとなく日曜日かな、とイメージできれば最後の一文にも気がつきやすかっただろう。

2 A「手分け」とは一つの仕事を何人かで分担して行うこと。B「口をはさむ」とは他人の話している途中で割り込んで話すこと。C「せなか合わせ」とは物事が裏表の関係にあること。

3 本文六行めから、おかあさんとおじさんが再婚したということに気づいただろうか(はずかしくて七海はまだ「おとうさん」とはよべないのである)。幸ちゃんはおじさんの子であるが入院しているので三人といっしょには暮らせない。そんな幸ちゃんのことを考えてしまうとおじさんは会話に集中できないのである。

4 本文中にははっきり書かれていないが、◎の文から、幸ちゃんと七海の対比から答えが導き出せるとわかる。同じ子どもであるのに七海は入院することなく健康に生活を送っているのに対して、幸ちゃんは病院で生活しなければならぬのである。

5 本文のここより前で、これ以上幸ちゃんのことを踏みこんでこないようにしているにもかかわらず、それに気づかずはまだ病氣の話が続けようと七海に半ばあきれているのである。七海のままざまな発言から、七海は決して心配で病氣のことを聞いているのではなく、自分が知りたいだけでおかあさんに聞いていることが読み取れる。

6 直前の七海の発言から「重い病氣」ではないと思っていることがわかる。

7 「なにかされたあとのくかもしれない」「なにかされる前のくものだ」という表現から、おかあさんとおじさんの「ごめん」は後者であることを読み取ってほしい。「どこかに行こうよ」と誘っても、「パフェでも食べに行こうよ！」と誘っても、それは実現せず、「また今度」と先送りにされているのである。

8 登場人物の性格や内面は、その人物の行動や言動、しぐさなどに表れやすい。前にも言われているのに病院に連れていってもらおうとしたり、おかあさんから「待ってあげて」と言われているのに、興味本位で何の病氣かたずねてしまったり、幸ちゃんの病氣のことを軽々しくいうことを注意されているのにふてくされたりしている、といったところから全体的に考えよう。

9 文学的文章では、時間や場所、視点人物の変化で場面が切り替わることが多い。本文の前半ではおじさんを含めた三人で話をしているが、後半ではおじさんが病院に出かけたために、おかあさんと七海の二人の会話になっている。

3

1 他にも「人気(にんき・ひとけ・ひとげ・じんき)」「上手(じょうず・かみて・うわて)」など、いろいろある。意味の違いをおさえておこう。Bを「いきもの」としてしまうと、「意味の異なる別の読み方」という指定に合わないので注意しよう。

2 ここよりあとの段落からは、日本でのように温水洗浄便座が開発され広まっていったかについてが書かれているのでしばらく読み進めていくと、「ところが、欧米ではなかなか普及しません。その理由として」とあるので、ここが答えとなる。

3 (③)の前では、きれいな好きな日本人には温水洗浄便座が気に入ってもらえるだろうと企業側が考えていたこと、あとでは評判がよくなかったことが書かれているので、(③)には逆接のはたらきを持つ「しかし」がはいる。(⑤)の前の「適切な洗浄ノズルの位置や角度」を「肛門の位置」と言いかえているので、(⑤)には言いかえ・まとめのはたらきを持つ「すなわち」がはいる。(⑦)の前にもあとにもトイレの機能が日々進化していることについて書かれているので、(⑦)には添加のはたらきを持つ「さらに」がはいる。

4 Iは輸入した「ウォッシュエアシート」の国産化に踏み切ったのち日本独自の進化をとげていくことから考えよう。IIは——線④の次の段落に「温水洗浄便座」の開発についてくわしく書かれているので注目しよう。この段落の二行めに「TOTOは一般向けの温水洗浄便座の開発のためのデータ収集にとっても苦労しました」とある。

5 「日本のトイレが絶賛され」ていることは本文一段落めにも書かれていた。「空港、ホテルは当然のこととしてスーパーマーケットにまで温水洗浄便座が備えられている清潔なトイレに、大きな驚きを感じる」とある。ア・イ・エはどれも事実ではあるが、絶賛されている内容ではない。

6 ◎の文から、この一文をもどすところの前の部分には、ウォッシュレットは完成したもののそれほど普及していなかったことが書かれていると予想できるだろう。「CM」ということばもヒントになる。

7 I 本文中盤の「日本の一般家庭においてはく」からはじまる段落に「一般家庭においてはく普及率八〇パーセントを超えています。パブリックスペースの普及率はさらに高く」と書かれている。

II 本文二段落めに「温水洗浄便座はくアメリカで開発されました。日本ではくTOTOがく輸入、販売したのが始まりです」と書かれている。

III 本文最後の段落に日本のトイレが日々進化していることが書かれており、また「日本のトイレは、これからも世界のフロントランナーであり続けるでしょう」とあることから、合っているとと言える。